

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400084		
法人名	医療法人 原会		
事業所名	グループホーム銘仙の家		
所在地	群馬県伊勢崎市平和町19-10		
自己評価作成日	平成22年8月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成22年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成20年7月のオープン時より、「みんなが仲良く、笑いの絶えない家」・「地域・家族・人が集まる家」・「その人の持つ、個性が活かせる家」をホーム理念とし、この理念をみんな(スタッフ間)で考えた時の気持ちを大切にしながら日々の生活支援(自立支援)を行っています。職員主導のケアの提供ではなく、ケアの主体者が利用者であること、利用者の思い・考え・気持ちを酌みながら常に携わようスタッフ間で定期的に話し合える機会、振り返りのできる機会を毎月設け運営に活かしています。みんなの家(ホーム)であることを常に意識し、それを共有していくことを目指して日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム、デイサービス、ショートステイの複合施設のため、施設内での交流などがしやすく、デイサービス利用者と同じ建物のグループホームを訪ねることができる。グループホームとしての地域の中の役割など独自のあり方、ケアの仕方などが提供できている。開設間もないホームであり、介護度の低い元気な人も居るので職員は利用者のできる事を見つけて協働している。運営推進会議の参加者の提案や情報提供により地域との関係が築かれ始めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフみんなで考えた理念は、ホーム内に掲示し、又、ホーム新聞に必ず掲載し、繰り返し振り返りを行えるようにしている。更に、GH職員会議や各カンファレンスでも理念を基にしたケアの実践を目指している。	理念はホーム内に掲示すると共にホーム新聞にも記載しており、職員は理念を共有し理念に基づき毎日の支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で書道を教えている方が、ホームにも定期的に来てくださり、書道教室を開いてくれている。又、メダカの飼育もホームで行っており、こちらも住民の方からの提供で飼育している。今後は地区の祭りや作品展の参加もみんなで考えていきたい。	運営推進会議のメンバーから情報をもらい地域との関係が築かれている。お祭りには利用者スペースの確保などの便宜も図られている。作品展に出品依頼があり、地域との関係が生まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GH運営推進会議では話題として「認知症」について話しあう機会があり、率直な意見を聞くことが出来ている。又、家族会や納涼祭などの催しに招待し、実際のかかわりの場面で理解や支援の方法をみんなで考えていく契機にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内での出来事(日常生活風景、事故や苦情、各種イベント、職員研修の報告など入居者・スタッフにかかわる全ての事項)を伝え、そこから意見や助言を頂きケアサービスに反映させている。	定期的で開催されている。情報の交換ができ提案や催事の案内、外部評価の説明、研修報告などされている。参加者よりめだかの飼育の提案がありめだかを飼育している。開催日の連絡は利用者家族全員に行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH運営推進会議の参加はもとより、その他にも、介護保険のことや運営に関する事項で不明点・疑問点が生じた際には、その都度、「相談・連絡・報告」を随時行っている。	運営推進会議の出席の依頼や介護保険加算などの相談に出向いている。また電話でも相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」については、毎年研修会を開き、振り返りを行っている。そこからは「言葉の拘束」も重要な事として捉える事が出来た。又、マニュアルの遵守も徹底している。入居者が外に行きたい時は、スタッフが同行して対応している。又、ドアの開錠も短時間だが行える時は行っている。	法人内研修で拘束をしない研修が取り入れられている。玄関の鍵は複合施設(3機能)利用のため開けられているが、グループホームへの入り口は自動的に鍵がかかる構造になっている。職員が手動で鍵を開けて外(エントランスホール)に行き玄関から外に出るようになっている。	玄関からグループホームスペースまでに距離があるので職員の気配りで鍵を開ける努力をお願いしたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待」については、研修会で学ぶ機会を作っている。新聞・テレビで伝えられる「虐待」事例を申し送り取り上げ常に「虐待」とは何かを考える意識を持たせている。又、不適切ケアの可能性のある際は、事故・苦情報告にあげるようにして、カンファレンスにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」については、研修会で学ぶ機会を設け、もし必要な状況が生じた時には、管理者・計画作成担当者が中心となり相談援助に対応出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前のホーム見学はいつでも可能で、又、入居契約時には、重要事項説明書・入居利用契約書に基づきその内容を順次説明している。同様に退居相談を受けた場合もその旨対応している。又、介護報酬改定など料金の変更が生じる時は、即時説明の方を行っている。このように随時相談にのれる体制を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	GH運営推進会議には家族の方にも参加して頂き、ホーム職員・地域の代表者・行政職員とともに意見や要望を表出できる機会を大切にしている。又、その声についてはGH職員会議などでスタッフに伝えている。	管理者は運営推進会議などで意見を言いやすいように配慮している。又年に一度アンケートをとり結果を取りまとめている。結果は職員会議に掛けられ共有されている。家族が意見など言いやすいよう職員は担当制になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内には、法人幹部に各事業所からの「報・連・相」が出来る機会が毎月ある。又、ホーム内でも職員会議を持ちスタッフの声を聞く機会を設け、活用出来る事は運営に反映させている。	月に一度職員会議を行い職員からの意見や要望を話し合っ、職員から出た意見等は管理者が法人に伝えて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標面談の機会を定期的を持ち、スタッフの声を聞く機会がある。又、外部への研修参加にも全面的なバックアップがあり、知識・技術・情操面の育成を助長している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの技量・情操面育成については、施設内研修を活用している。参加率も良い。又、外部への研修参加も奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホームから参考意見を伺う時があったり、県のグループホーム大会を聴講し、他ホームの取り組みを聴講して参考になるものはスタッフへ伝えていくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・相談時から情報収集(生活歴・趣味・性格・既往歴等)を重要視し、細かく確認し、入居決定後は、入居者本人の意向に応えられるよう、入居前カンファレンスを開催し、環境面も含め生活全般をスタッフで話し合い情報の共有を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前段階では、必ず家族からの要望や意見、疑問点・不明点、不安点等を確認している。その中では、出来る事・実現が難しい事を懇切丁寧に説明していく事を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当日においても、本人・家族の意向を必ず再確認し、何を望んでいるのかを掴む事を大切にしている。併せて必要・要望時は他の社会資源の仕組みについても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の生活歴・経験値が尊重されており、人生の先輩としてスタッフが学ぶ側・教わる側になっているケースがたくさんある。(家事、園芸、創作活動等あらゆる場面で入居者から学ぶことが多い。)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	身体面・精神面の変化が生じた時には、どんなに些細な事でも必ず家族連絡を行っている。又、イベント等には声を掛けみんなで過ごす機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活の中で本人が話される内容そのものが本人を良く知るためのきっかけになるので、常にコミュニケーションを大事にしている。一例としては、何気ない会話から、本人の行きたい場所がわかり、そこを散歩やドライブで取り入れ行く事がある。	市街地にあり面会しやすい立地条件のため、入居前の友人が自転車で面会に来たりしている。家族がかかりつけの美容院へ連れて行ってくれたり、管理者は利用者から会話を通して外出したい場所など聞き出して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で作業出来る(洗濯、食事の用意・片付け等)環境があり、入居者同士がお互いかわりあいを持てるようになっている。又、入居者の得意分野や特性も配慮しての役割や係分担もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了(退居)となった場合でも、それで終わりとならないよう、退居相談時・退居当日、必ず本人並びに家族に気軽に来所して頂けるよう声を掛けている。又、退居先には情報提供等で協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の自由に制限無く希望を伺い、必要に応じてはプランにも取り入れている。困難時には、しっかりと説明を行い、本人の表情・行動を観察し、対応に配慮している。	管理者、職員は会話を通して本人の意向の確認を行っている。また家族からの情報なども聞き、参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の本人とのコミュニケーションから昔の事から現在の事を知る事が出来たり、あるいは、家族からの情報提供で生活状況や暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録の活用、1ヶ月に1度評価記入の実施(スタッフが担当する入居者に対して)をする事で個人の現状把握につながっている。又、スタッフ間での情報共有の場(申し送り、カンファレンス)もしっかり取っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月開催のGH職員会議の中で、日々の入居者の生活状況の振り返りを行う機会を持ち、プランの再確認につなげている。家族との面談も定期的に行っており現状報告は欠かさず行っている。	本人や家族の意見を基に職員が会議で介護計画を検討し作成をしている。状態変化の場合の随時の見直しと3ヶ月毎の見直しが行われている。見直しの時に担当者がモニタリングを行っている。	計画に対して毎月のモニタリングを基に見直しを検討するように、モニタリングは毎月行ってほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での些細な一言や、表情・仕草も意識し、細かな記録を心掛け、プランに即した記録が行えるようにしている。又、時間に即した記録も心掛け、時系列で捉えられるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	加齢とともにADL面の低下も懸念されることが見受けられる。介助方法や手段について他事業所の専門スタッフにアドバイスを頂いたり、福祉用具の活用や介護保険手続きに居宅を利用する等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の要望・希望を受け、又、IADLの維持の一つとして隣近所のスーパーへの買い物や地域の中でバリアフリーが整備されている建物での外食を定期的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人又は家族が希望されるかかりつけ医になっており、定期的な往診を受けている方もいる。受診時は家族同行もあれば、難しい時はスタッフが受診に同行している。	家族の希望するかかりつけ医となっている。協力病院からは週1回の往診がある。他科受診も家族が支援できない場合はホームでの支援を行っている。家族には結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同建物内で勤務している看護師に日々の入居者の健康管理、助言、気付いた事の報告の対応をして頂いている。又、介護スタッフの方でも、身体・精神面双方の変化に気付いた際は、必ず看護師に報告し、連携を大切にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関との連携(情報の受け取りとして、ADLの状況・治療の経過状況・入院期間等)を密に行い、退院後のホームでのアプローチがスムーズに行くようにしている。又、家族からの確認も平行して行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重要事項説明書を基に、詳細な説明を行いその様な状況が生じた際のホームの方針を伝え理解を得ることに努めている。又、再説明を求められれば、その都度対応している。本人・家族、かかりつけ医、ホームの連携を大切にしてい事を伝えている。	事業所の指針が作成されており、重要事項説明書に記載し入居時に家族等に説明を行い、了解を得ている。看取りはまだ行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修にて、毎年「急変時の対応」について学んでいる。又、マニュアルの方も活用している。それ以外でも日頃の中で不安やわからない事は、随時看護師に聞き、レクチャーを受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施(昼間想定と夜間想定)。消防機関からのレクチャーや設備会社からのレクチャーを受けている。又、GH運営推進会議でも、それを議題に上げ、災害について考えていきっかにしている。	法人全体で防災訓練を行っている。消防署立会いで年2回行っている。昼夜想定での訓練をしている。地域への参加も呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修で「接遇」「個人情報保護」「プライバシー」について学び、日頃のケアの中での、不適切な対応が行われていないかの振り返りにしている。特に声掛けの仕方、呼名の仕方には注意を払い、相手の立場にたった言葉遣い・態度を心掛けている。	毎年職員は接遇に対して研修を受けている。会話の仕方、呼びかけの仕方など常に振り返りを行っている。排泄時の扉やカーテンなどにも配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ主導で入居者の言行動を決定していくのではなく、必ずあらゆるコミュニケーションの中から、入居者の意思や希望を汲み取るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの都合に合わせるのではなく、入居者一人ひとりのペースに視線を落として、それに合わせたペースでの対応を行っている。(業務優先にならないよう注意している。)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の更衣時の洋服選びにおいては、入居者の意思を尊重して対応している。選択が難しい方には、確認を取りながらスタッフが一緒に行っている。尚、理美容においては、毎月希望に応じて訪問理美容で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は施設内の栄養課から配食で対応しているが、みそ汁をよそったり、お茶を入れたり入居者とスタッフが協力して行っている。尚、おやつや外食等は意向を聞きながら、みんなで作ったり、食べに出かけたりも定期的に行っている。	法人の配食所から盛り付けられた食事が提供される。利用者は味噌汁をつけたり、テーブル拭きをしたり共働作業をしている。献立は希望が取り入れられている。手作りのおやつなど工夫している。職員も一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のカロリーコントロールは、栄養課の管理栄養士・栄養士の方で行っている。ただし、摂食量の把握や水分量の把握は記録を取り、スタッフの方で管理し、健康状態の確認の材料にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後、口腔ケアの励行を行っている。自分で出来る方は自己で行って頂き、難しい方に関しては、スタッフの方で援助している。磨き残しがないよう最終確認はスタッフがこなっている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄援助が必要な方には、まず排泄パターンの把握に努め、声掛けをし、トイレ誘導・介助を行い、不自由がある際は声を掛けていただけるよう配慮している。又、尿・便意が曖昧な方で訴えが難しい方に関してはさりげなく誘導し対応している。尚、気持ちよく使用してもらうために毎日清掃整備を徹底している。	管理者、職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない誘導を行っている。居室での清拭など行い他の人にわからないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の中で、健康作りの一つとして、散歩や体操を取り入れている。又、水分・食事メニューには乳製品等も取り入れられており、適度な運動と適切な飲食物で、自然排便が出来るように支援している。ただし、便秘予防としては、かかりつけ医の指示や本人の希望にて下剤を服用されることもあ		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴して頂いている。ただし、体調不良等で入浴出来ない場合は、清拭等で代替している。入浴時間の希望等は確認のうえ、本人のペースに合わせて取り組んでいる。	月、水、金、の午後、週3回の入浴の支援がされている。拒否が合った場合には次の日に声を掛けて入浴してもらうなど工夫している。季節の風呂(ゆず)バスクリンなどがある。足浴、シャワーなどにも対応している。	曜日や時間など施設側から決めないで利用者の入りたい時には入れる体制づくりを工夫してもらいたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝等休息は本人の希望に合わせている。ただし、体調不良時は、スタッフの方で気遣い促している。入眠・起床時間、寝具類・室温調整、夜間排泄時間等は、一人ひとりの把握に努め、巡視時にその都度確認している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服されている薬の種類・数を情報ファイルに記載し、スタッフが把握出来るようにしている。又、変更がある場合は、本人への説明をしっかりと行い、納得のうえ、内服して頂き、状態の変化の確認を行っている。服薬時は薬袋にある名前を復唱し、内服時間を識別しているラインを確認し、薬		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフ主導で入居者を一方的に援助するのではなく、入居者の出来る能力を探し把握するようにしている。そして、その能力を認め、日々の生活に活かしている。(洗濯物干し・取り込み・たたみ、掃除、食卓の準備・盛り付け・片付け、食器洗い、貼り絵等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は、近隣への散歩やテラスでの植物、野菜の世話・手入れを行い気分転換を図っている。入居者の希望に合わせ、車による外出(公園への散歩、ピクニック、買い物、外出等)も行っている。	散歩、テラスの草むしり、野菜の手入れなど行っている。ポストに手紙を出しに行ったり、外食、ドライブ、買い物などに出掛けている。外食は寿司、うなぎ、餃子などを食べに出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望により買い物に行った時等は、レジにて会計の支援を行っている。(レジに並び、購入品とお金を渡し、お釣りとレシート、購入品を受け取るまでの一連の動作を行っている。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、電話を掛けて頂き、電話を自己にて掛けるのが難しい方に関しては、スタッフがお手伝いをしている。手紙など書いた時は、近隣のポストまで一緒に出しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは、入居者とスタッフの方で協力して日々整理整頓をして安全に暮らせるよう配慮している。又、フロアの飾りつけは、季節(四季)を常に感じ取れるように、季節ごとに模様替えを行っている。(みんなで創作した飾りを飾ったりしてレイアウトを行っている。)	ガラス張りの広い窓からは明るい日差しが入り外の景色がよく見える。隣に高等学校があり生徒の出入り、車の動きなど飽きる事が無く見られている。共有スペースにはめだかが飼われている。夏は高い窓からカーテンが下げられる。季節感のある飾り付けがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファがあるので団欒が出来るような配置を取っている。又、一人でぼつんといることがないように、そのような場面を見かけた時には、スタッフの方で気遣いをしている。疲れている時等もスタッフで気遣いをして居室で休息を取るか確認などをして配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望に沿って、居室環境のレイアウトを行っている。又、いつも使っていた馴染みの家具等が置きたいのであれば、持ってきて頂くようにして、その方にあった居室空間を作っている。	居室にはテレビ・ラジカセ・時計・化粧品・裁縫道具などが持ち込まれて、一人ひとり個性のある居室作りが工夫されている。本の好きな人は雑誌など読まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が自分の部屋だと認識できるように表札を作成し掲示したり、自分の入浴日が把握出来るように入浴表を掲示したり、役割・係表を掲示し、自己にて日課がつかめるように支援している。又、移動時障害物が生じないように共有空間は整理整頓を常に心掛けている。		